



平成27年3月12日
愛知県在宅医療連携拠点推進事業報告会

豊明市

豊明市役所
健康福祉部 高齢者福祉課
地域ケア推進担当係 近藤 有紀子

藤田保健衛生大学
地域包括ケア中核センター
都築 晃

1



本日の報告内容

- ◆15か月間に取り組んできたこと
- ◆15か月間の取り組みによる「収穫」
- ◆これからの取り組みについて

2

豊明市の概況 ①



- ・愛知県のほぼ中央に位置する名古屋市のベッドタウン。
- ・人口68,448人（28,112世帯）
うち、高齢者人口 16,131人
- ・高齢化率 **23.6%**（地域差あり）
- ・総人口は減少傾向で推移。
年少人口、生産年齢人口とも減少する一方で、高齢者人口は増加。

■豊明市の保健・医療に関する社会資源

病院3（藤田保健衛生大学病院、桶狭間病院藤田こころケアセンター、豊明栄病院）
医療機関39、歯科医療機関39、薬局25、訪問看護3、訪問リハビリ3

- ◆医師会：東名古屋豊明市医師会 ◆歯科医師会：愛豊歯科医師会豊明支部
- ◆薬剤師会：日進東郷豊明薬剤師会

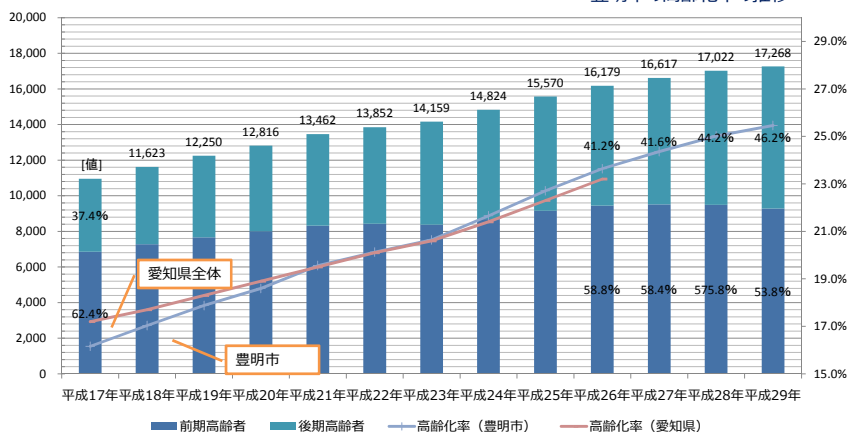
■豊明市の介護・福祉に関する社会資源

地域包括支援センター2（H24より委託）、特別養護老人ホーム4、老人保健施設2
特定施設2、小規模多機能居宅介護1、認知症対応型共同生活介護3
居宅介護支援事業所10

3

豊明市の概況 ②

豊明市の高齢化率の推移



豊明市の高齢化率は、平成24年度から愛知県全体と逆転。特に、今後、数年の推計は、後期高齢者の伸びが著しく、高齢者の46.2%となる見込み。

要介護（要支援）認定者数は、毎年80～160人程度増加しており、認定率は13.6%、要介護（要支援）認定者数は2,206人となっています。

豊明市の取り組んできたこと

愛知県地域包括
ケアモデル事業

(H26.4～H29.3 3ヶ年事業)
医療・福祉一体提供モデルとして実施

豊明市北部地域をモデル地区とし
藤田保健衛生大学とともに事業展開

豊明団地における取り組み
= けやきいきいきプロジェクト



豊明市北部地域における地域包括ケアの取り組み

豊明市全体における在宅医療・介護連携推進に関する取り組み

東名古屋医療圏域（豊明市・東郷町・日進市・長久手市）における在宅医療・介護連携推進に関する取り組み

介護保険 地域支援事業と
して在宅医療・介護連携推
進事業を強化推進

愛知県在宅医療連携拠点推進事業

(H26.1～H27.3 15ヶ月事業)

- ・地域包括ケア連絡協議会の設置
- ・地域包括ケアシンポジウムの開催
- ・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成
研修事業の実施
- ・ICT「いきいき笑顔ネットワーク」による連携推進
- ・市民啓発の実施(広報特集記事、出前講座)
- ・ICTネットワークと見守りセンサーを活用した見守りサポ
ート事業の実施
- ・医療・介護資源リストの作成 など

愛知県多職種協働による在宅チーム医療を担う
人材育成研修 モデル事業
(H26.1～H27.3 15ヶ月事業)

豊明市の地域包括ケアに関する背景

学校法人藤田学園との包括協定

- ・藤田保健衛生大学・藤田保健衛生大学病院との
多分野での連携協力に関する包括協定締結



UR都市機構との包括協定

- ・超高齢社会に向けた団地の地域の医療福祉
拠点化に向けて
包括協定締結
- ・全国100団
地拠点に選定



ICT 在宅医療・福祉統合ネットワーク
「いきいき笑顔ネットワーク」の運用

- ・在宅医療介護連携
へ向けたICTによる
多職種連携チーム支
援の推進

- ・名古屋大学医学部
附属病院先端医療
臨床支援研究センタ
ーによる技術支援



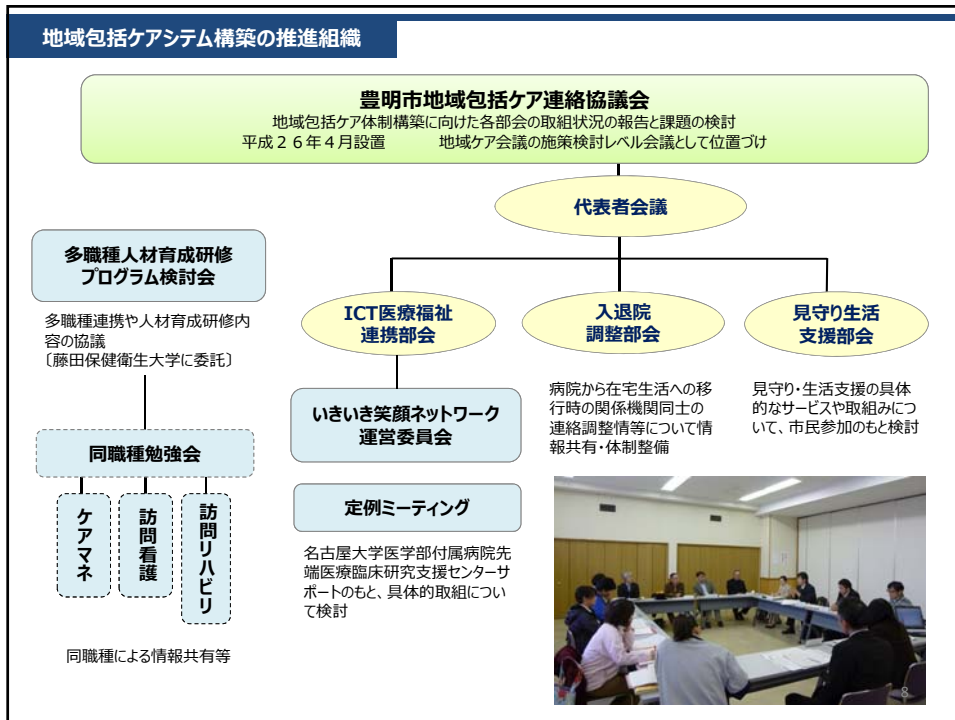
いきいき笑顔ネットワークの現在までの経過

- 平成23年2月～ 試験運用開始
- 平成23年10月～ 地域正式導入
- 平成25年9月～ 自立的運用開始
(行政・3 団会との協定締結)
- 平成26年6月～ ICT見守りサポート事業の開始

いきいき笑顔ネットワークの利用・登録状況

患者登録者数 392人
(参考) 豊明市の介護認定者数 2,206人
今までの患者登録記事数 3,293件

- 登録医療機関・介護関係機関 92事業所
- ・病院
 - ・藤田保健衛生大学病院
 - ・歯科医院
 - ・行政・包括
 - ・薬局
 - ・障がい者相談支援センター
 - ・居宅介護支援事業所
 - ・老健施設
 - ・訪問看護ステーション など



地域包括ケアシステム構築の推進組織

豊明市地域包括ケア連絡協議会

代表者会議

〔委員〕 名古屋大学医学部附属病院教授、東名古屋医師会副会長、東名古屋豊明市医師会代表、藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター、社会福祉協議会長、民生児童委員連絡協議会長、シルバー人材センター会長、区長連合会代表、ボランティア代表
 〔オブザーバー〕 瀬戸保健所、県医療福祉計画課、国立長寿医療研究センターなど
 〔事務局〕 高齢者福祉課、包括支援センター

ICT医療福祉連携部会

いきいき笑顔ネットワーク運営委員会

〔委員〕
 東名古屋豊明市医師会代表
 名古屋大学医学部附属病院教授
 東名古屋豊明市医師会代表
 東名古屋豊明市医師会代表
 愛豊歯科医師会豊明支部長
 愛豊歯科医師会豊明副支部長
 日進東郷豊明薬剤師会長
 豊明市薬剤師会長
 藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター
 訪問看護ステーション
 〔オブザーバー〕
 名古屋大学医学部附属病院
 先端医療・臨床支援研究センター
 瀬戸保健所など
 〔事務局〕
 高齢者福祉課、包括支援センター

入退院調整部会

〔委員〕
 東名古屋豊明市医師会代表
 藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター
 訪問看護ステーション
 藤田保健衛生大学病院退院連携調整室
 豊明老人保健施設

〔オブザーバー〕
 瀬戸保健所など

〔事務局〕
 高齢者福祉課、包括支援センター

見守り生活支援部会

〔委員〕
 社会福祉協議会長
 民生児童委員連絡協議会長
 シルバー人材センター会長
 区長連合会代表
 ボランティア代表

〔オブザーバー〕
 瀬戸保健所など

〔事務局〕
 高齢者福祉課、包括支援センター

9

いきいき笑顔ネットワークと見守りセンサーを活用

いきいき笑顔ネットワークと見守りセンサーを活用した「見守りサポート事業」

目的

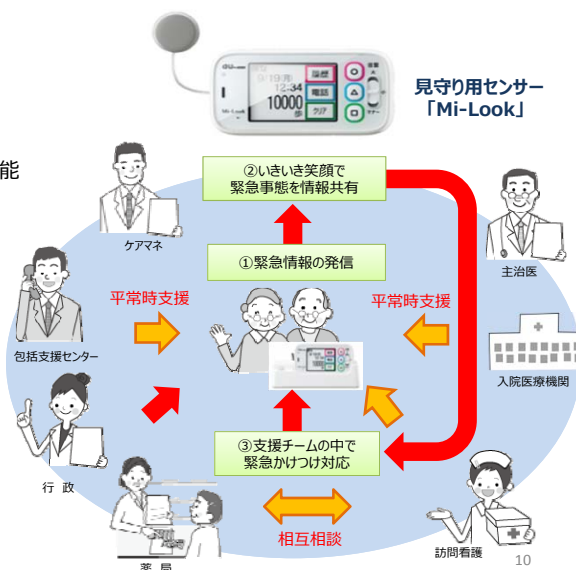
- 1 独居高齢者の孤独死・孤立死予防
- 2 緊急事態への早期発見・早期対応
- 3 高齢者の健康づくり

取組み内容

- 1 - 見守りセンサー（人感センサー）機能
- 2 - 緊急センサー機能
- 3 - 万歩計機能

対象者 合計400名

- ・いきいき笑顔ネットワーク登録者
- ・市内独居高齢者



いきいき笑顔ネットワークと見守りセンサーを活用

■本人概要

80歳代 男性Nさん 1人暮らし
 認知症 要介護1
 (サービス利用状況)
 ・デイケア (6回/週) - Yクリニック
 ・配食サービス (7日/夕食)

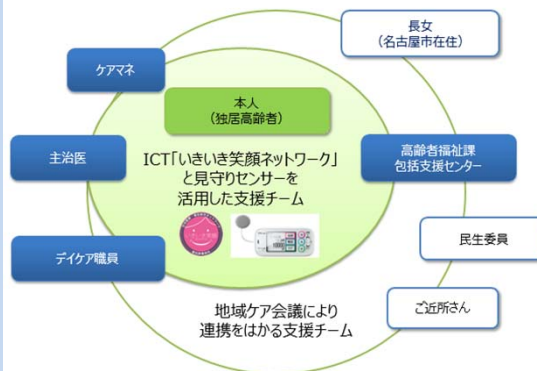
■支援者

長女 (名古屋市在住、必要時支援)
 主治医、デイケア職員、ケアマネ
 地区民生委員 (隣の家)、ご近所さん

■本人・家族の希望

本人：1人暮らしでも心配なく愛犬との生活を続けていきたい

家族：介護サービスなどの必要な支援を利用しつつ、健康管理をしながら交流の場へも参加し楽しく過ごしてほしい。



■経緯

妻は8年前に他界。その後1人暮らし。認知症より、服薬ができない等の問題かかえつつ生活。

見守りサポート事業の導入をきっかけにインフォーマルも巻き込んだ支援チーム結成へ

11

15か月間の取り組みによる「収穫」その1 豊明市の特徴を再認識 !!

- 豊明市は近隣自治体に比べ、介護施設への入所率が高い傾向
- 緊急・状態悪化時、夜間・休日受診など 藤田保健衛生大学病院への依存傾向が強い
- 状態悪化→衛生大入院→市外の中核病院へ入院・施設へ入所 というパターン傾向
- 施設入所→状態悪化時→系列病院へ転院→回復して再び施設 という循環パターン傾向
- 本人は最後まで在宅で・・・と望む声も多い

きっかけとなった主な取り組み

在宅医療福祉関係機関ヒアリング

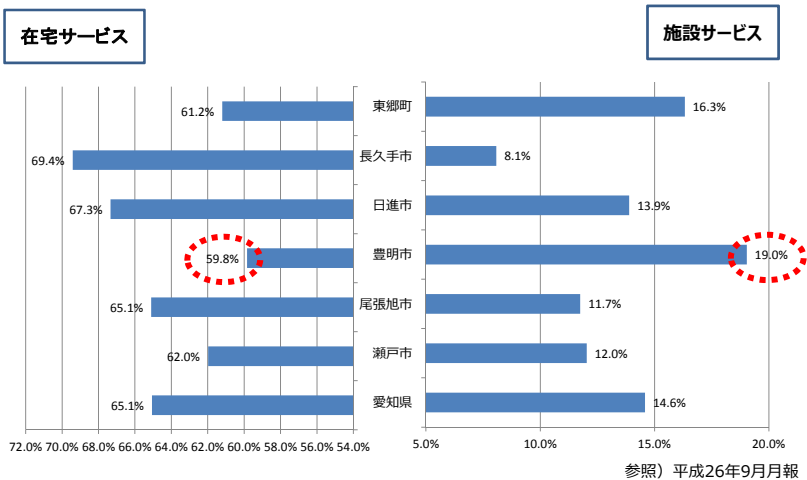
豊明市地域包括ケア連絡協議会
 入退院調整部会による検討

市民ニーズ調査

ケアマネ連絡会での意見交換

- 大学病院スタッフとの在宅医療に関する相互理解
- 大学病院地域連携室
 ⇔市内の医療・介護資源との連携強化
- 市外の中核病院・市外の施設
 ⇔市内の医療・介護資源との連携強化
- 市民啓発の強化 (自分らしい選択支援)

豊明市の在宅・施設サービス利用の比較



利用者数÷認定者数で算出。
 豊明市は、他市と比較して在宅サービス利用率が低く、施設サービス依存が高い傾向。
 施設サービスが充実しており、入所しやすい一方、本人意思に関わらず、安易に入所の傾向も。

豊明市高齢者福祉・介護保険計画策定 市民ニーズ調査より

- ・方法／ 自記式シート（郵送にて回収）、H26. 1月調査、回収率約60%
- ・有効回収数／ 高齢者本人調査：2,320票・家族介護者調査：197票

問：今後、どのように介護を受けながら生活をしたいと思いますか？

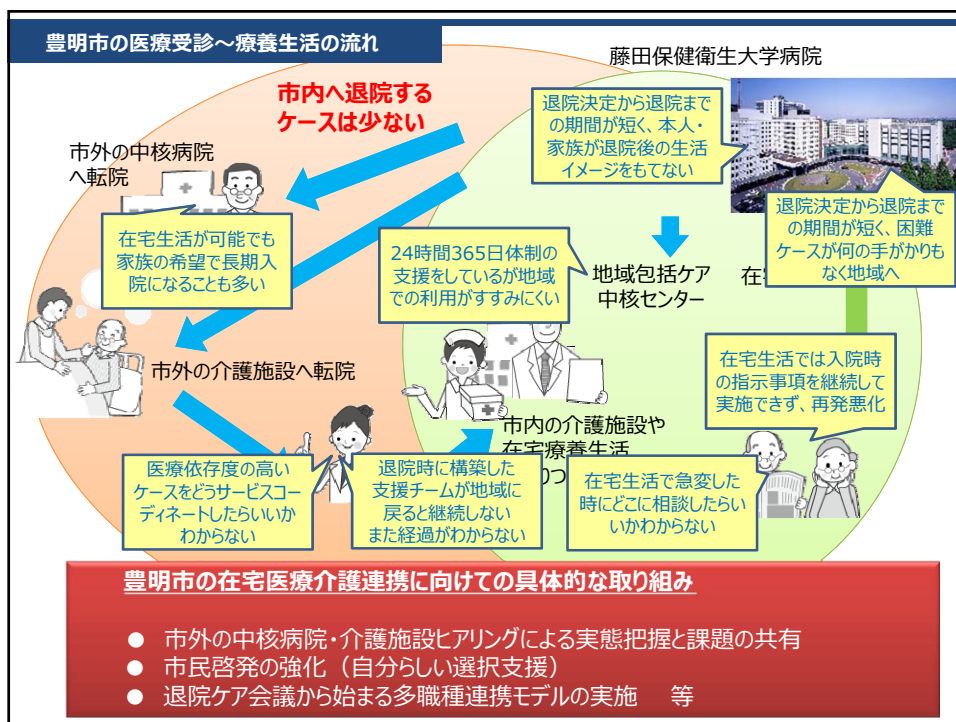
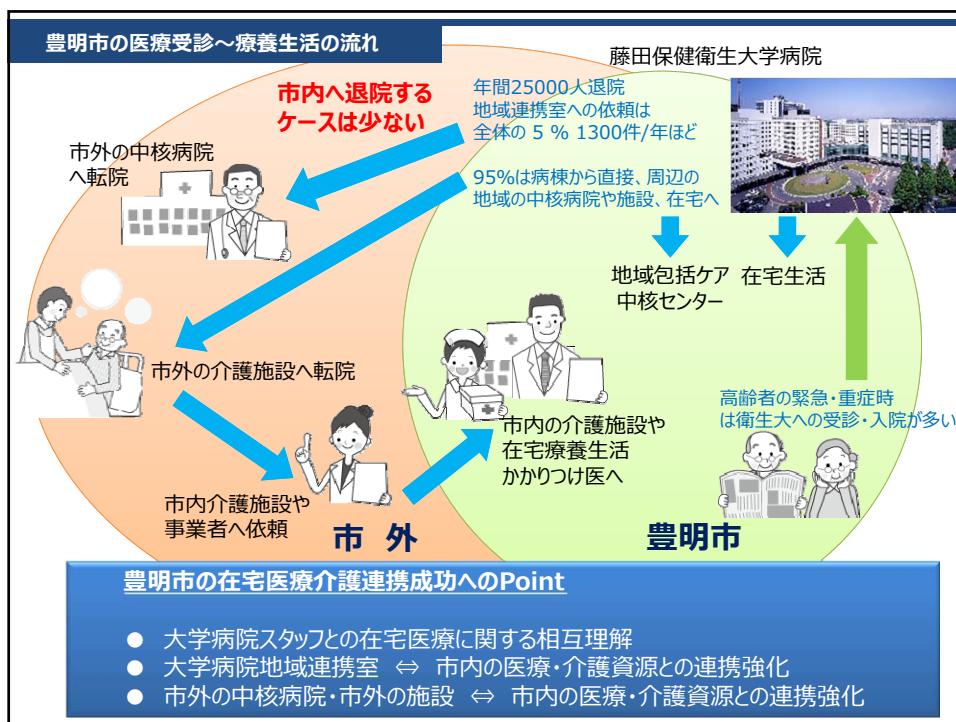
- 「ひとり（または夫婦）で、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・**27.8%**
- 「子どもや親族と同居し、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・**23.9%**
- 「子どもや親族と同居し、家族介護を中心に
介護保険などのサービスは利用しないで生活したい」・・・**11.6%**

在宅を望む声が約6割

問：自宅での療養を難しくする要因は何だと思いますか？（複数回答可）

- 「家族に負担がかかること」・・・**59.7%**
- 「急変したときの医療体制が心配なこと」・・・**23.7%**
- 「自宅に往診してくれる医師や訪問看護ステーションが分からないこと」・・・**14.4%**
- 「病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養準備が大変なこと」・・・**8.9%**

一方で、在宅療養に対する
市民の不安は大きい



**1.5か月間の取り組みによる「収穫」 その2
豊明市の多様な資源・キーパーソンを再発見 !!**

- 地域包括ケア連絡協議会、地域ケア会議、多職種人材育成研修などを進める中で各部門における地域の「キーパーソン」が顕在化してきた
- 多様な機関による医療・介護資源リスト、在宅医療研修・講演会の開催
- 在宅医療介護連携に向けてあらたに動き出し：藤田保健衛生大学病院看護部 東名古屋医師会 等

**藤田保健衛生大学病院 看護部
多職種連携「みらいの会」**

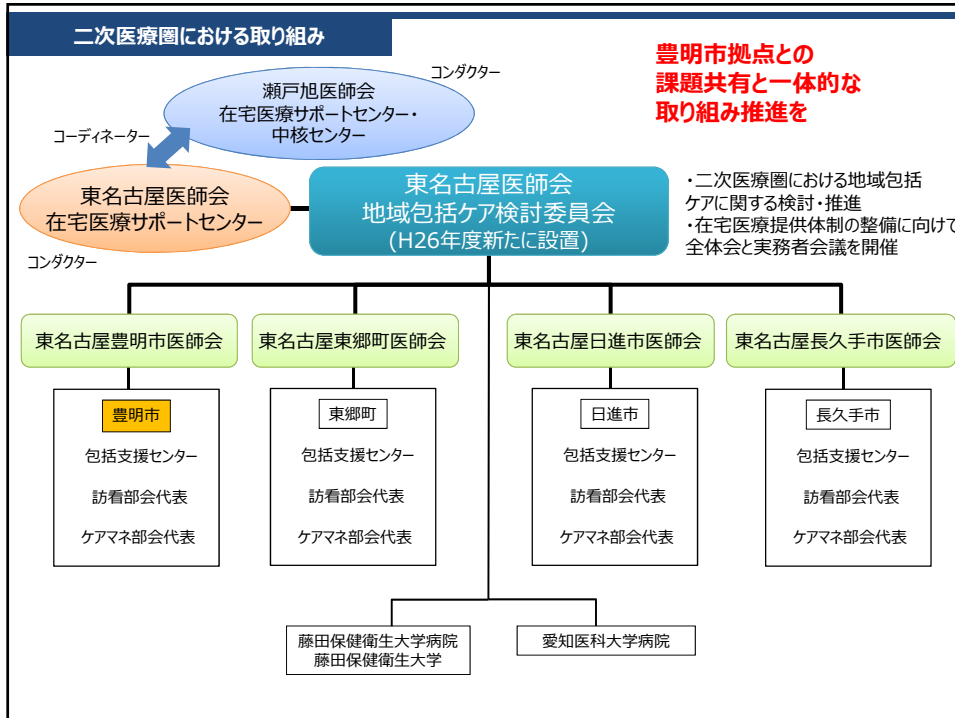
- ・在宅医療介護連携に向けて多職種連携研修会をスタート
(認知症、脳卒中ケア、糖尿病ケアをテーマに26年度3回開催)
- ・認定看護師による在宅同行訪問をスタート

東名古屋医師会地域包括ケア検討委員会

- 二次医療圏による在宅医療介護連携の検討をスタート

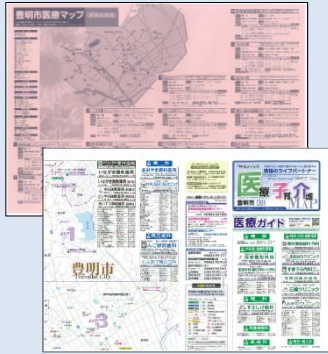
- 広域的な在宅医療介護連携体制について整備検討
- 東名古屋医師会在宅医療サポートセンターと連携した総合相談窓口整備へ
- 多様な情報・多様な機関の取り組みを集約し、わかりやすく効果的に、市民・関係者に提供
- 藤田保健衛生大学病院看護部との連携による在宅支援推進

17



市民・関係機関へのわかりやすい情報整備

各機関が作成、発行している
既存の医療・介護資源リスト



- ・周知・配布に偏りがあり、市民に広く活用されていない問題も
- ・関係機関の円滑な連携にはさらに詳細情報の共有も必要

各種資源リストの効率的な活用へ
相談窓口への配布、市民への周知
各種資源リスト情報の集約 等

いきいき笑顔ネットワークを活用し
医療・福祉資源情報の見える化へ
【医療・福祉関係機関の業務効率化支援】

医療・福祉資源の
最新詳細情報をリスト
化し地域で共有
情報更新にも対応



19

藤田保健衛生大学との在宅連携支援

患者情報

記事の抽出・絞り込みパネル

記事者: 小島菜保子 (Ns: 藤田保健衛生大学訪問看護ステーション) 2015年02月24日 16時19分

最終更新日時: 2015年02月24日 16時19分 文書タグ:

記事日: 2月 2015年

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

記事本文:
本日慢性呼吸器疾患の認定看護師が訪問看護に同行しました。
酸素を使用したくない理由として「はずかしい」ことを何度も言われま
し、労作時 1.5分/分の処方変更がありました。
手元で操作ができるようにリモコン手配を病人に依頼しました。
定期的に酸素の使用状況を報告させていただきます。
天気によければ散歩を進めていきたいと思ひます。
よろしくお願ひ申し上げます。

担当者/グループ: 小島菜保子 (Ns: 藤田保健衛生大学)

記事者: 牧靖典 (Dr: 牧医院)

最終更新日時: 2015年02月24日



医師



中核センター
訪問看護

認定看護師

藤田保健衛生大学との在宅連携支援

- ・地域包括ケア中核センター訪問看護ステーション 看護師
- ・藤田保健衛生大学病院看護部 認定看護師

20

市民・在宅療養者への理解と周知

平成26年度地域包括ケア講演会
「在宅医療・福祉のこれから」
○日時：平成26年2月8日（土）
○会場：豊明市文化会館 小ホール
○参加者：約130名
（市民、医療福祉関係者、行政職員等）

○内容：
（第一部）講演
講師：牧 靖典 先生
（いきいき笑顔ネットワーク連絡協議会長）
（第二部）シンポジウム
コーディネーター：水野 正明 先生
（名古屋大学医学部附属病院 総長補佐）
パネリスト：
石川 英明 市長（豊明市長）
隈部 泰男 先生（東名古屋豊明市医師会長）
松森 正起 先生（愛豊歯科医師会豊明支部長）
森 道成 先生（日進東郷豊明薬剤師会長）



平成27年度地域包括ケア講演会
「人生の最終章、あなたはこう生きる」

○日時：平成27年3月7日（土）
○会場：豊明市文化会館 小ホール
○参加者：約300名予定
（市民、医療福祉関係者、行政職員等）

○内容：
（第一部）講演
講師：佐橋 大（中日新聞生活部記者）
（第二部）講演
講師：村井 美代（藤田保健衛生大学病院
緩和ケア科医師）



多職種チーム支援を推進するための取組み

平成26年度 多職種協働による在宅
チーム医療を担う人材育成研修事業
〔藤田保健衛生大学への委託実施〕

- ・プログラム検討会 2回
医療福祉多職種による検討会議
- ・研修会 4回
がん療養、認知症、在宅歯科、薬剤支援
CKD等の講演、毎回懇親会、毎回グルー
プワーク、iPadを使ったいきいき笑顔ネットワ
ークワークショップ
- ・同職種勉強会 2回
ケアマネ、訪看、訪リハによる



【豊明市委託】2014年度 多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修会

医療福祉従事者の相互の専門知識を高め、チームとして
患者・家族を支えるための役割を担うため、下記のとおり研修会を行います。

参加費無料
申し込みは要約にて

交流・グループワーク
各回とも、約60分の
グループワークを予定

懇親会
各回終了後に、
懇親会を各職種別で開催を
予定

【第2回 研修会】
■日時：10月28日（日） 14時～16時20分
■会場：豊明市商工会館

■プログラム
○講演「認知症ケアにおける病院から在宅への連携支援（仮）」
豊明市人権福祉課 社会福祉課長 名 倉 院長 兼 山 渡 先生
○講演「認知症ケアと在宅にむけての取り組み」
狭野間南診療センター 佐藤 理典 看護長
○「豊明市の現状報告」 豊明市役所高齢学術福祉課
○交流・グループワーク 「認知症療養の在宅支援」における課題と解決策について。
○懇親会 予約制 懇親会（会場にて軽食をご用意します。参加費500円）

【第3回 研修会】
12月1日（日）14時～16時20分 会場：豊明市商工会館
○「療養施設と在宅支援（仮）」
藤田保健衛生大学病院 緩和ケア科 松原 浩一郎 教授
○「訪問看護と在宅支援（仮）」
栗原節 講師 受講者
○懇親会 予約制 懇親会（会場にて軽食をご用意します。参加費500円）

【第4回 研修会】
1月29日（日）14時～16時20分 会場：豊明市文化会館4Fホール
○CKDにおける在宅支援（仮）
富田保健衛生大学病院 腎臓科 藤原 浩一 先生
○CKDと在宅生活に関する研修
富田保健衛生大学病院 腎臓科 藤原浩一先生 佐々木 幸子 看護長
○「豊明市の現状報告」 豊明市役所高齢学術福祉課
○交流・グループワーク 「がん療養の在宅支援」における課題と解決策について。

【第5回 研修会】
10月4日（土） 14時～16時20分 会場：豊明市商工会館
■プログラム
○講演「がん療養のケア（緩和ケア）在宅への連携支援」
富田保健衛生大学病院 緩和ケア科 佐藤 理典 先生 佐々木 幸子 看護長
○講演「がん療養のケアと訪問看護の取り組み」
富田保健衛生大学病院 緩和ケア科 佐々木 幸子 看護長
○「豊明市の現状報告」 豊明市役所高齢学術福祉課
○交流・グループワーク 「がん療養の在宅支援」における課題と解決策について。

【問合せ・申込先】 藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター 須村・郁美
問い合わせ先：TEL(0562)93-3706 申し込み先：FAX(0562)93-3708 E-mail kurimoto@fuji-hu.ac.jp

多職種チーム支援を推進するための取組み

人材育成研修事業における
豊明市の工夫 その1

市から現状報告前
豊明テスト（プレ）

現状報告を聞けば、
わかる程度の基礎問題
5点満点
平均 0.87点
(n = 180)



豊明市職員から現状報告

例) 医療情報、介護情報
施策、将来推計、保険料
etc..

研修会終了時
同じ問題をテスト
(ポスト)

平均 4.21点

「豊明テスト」で現状と課題を共有

人材育成研修事業における
豊明市の工夫 その2

第2回 (H26.10.26開催)
在宅認知症の支援課題について



市民も多職種支援チームの一員

多職種チーム支援を推進するための取組み

人材育成研修事業における
豊明市の工夫 その3

iPadと「電子@連絡帳」を駆使して
「在宅医療仮想チームを作り
至急連絡を取り合い模擬患者を救え！」



ICTネットワークを使いこなして円滑な連携

人材育成研修事業における
豊明市の工夫 その4

藤田保健衛生大学への委託により
学生 = 次世代の医療系人材の育成への
つながりつくる



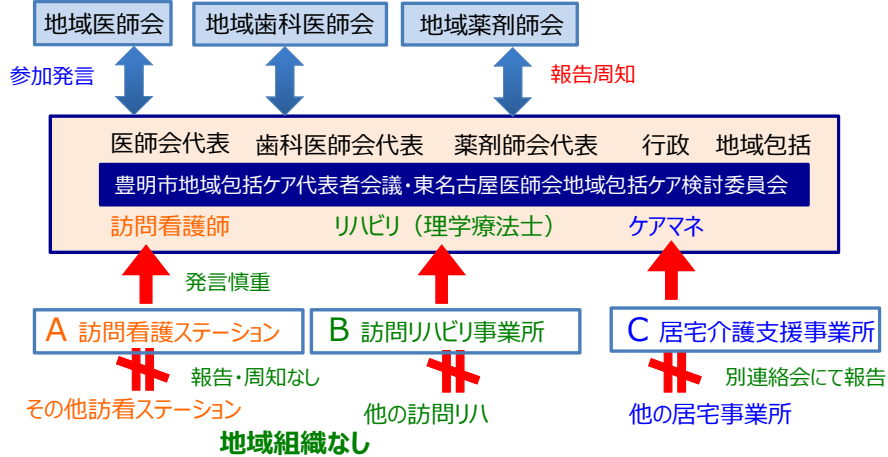
次世代の人材を育成

多職種チーム支援を推進するための取組み

人材育成研修事業における 豊明市の工夫 その5

- 多くの職種は、三師会（医師、歯科、薬剤）のように地域組織づくりが未達成です。
- 看護、リハ、ケアマネ代表者は、会議等の発言・同職種へ報告周知・課題共有が課題でした。

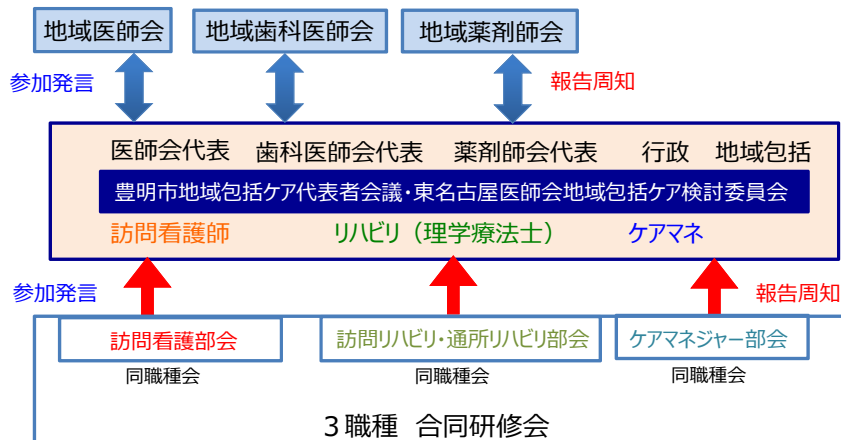
地域組織あり



多職種チーム支援を推進するための取組み

- 職種ごとの同職種会設立。
- 代表者選出。同職種代表者は会議発言と、同職種会で会議結果報告の役割。
- 同職種共通課題の対策検討、3職種合同研修会開催。

地域組織あり



多職種チーム支援を推進するための取組み

同職種会
3職種合同研修会
 (H27.2.7開催)

訪問看護部会

「看護とリハの情報交換がしたい」

「夜間とか日曜日訪問しんどいよね」

「もっと訪問リハのオーダー欲しい」

ケアマネジャー部会

「リハさんに住宅改修時に来てほしいな」

「正直に教えて。苦手なケアマネのタイプは？」

「有給取れますか？」

訪問リハビリ通所リハビリ部会



- ・ 同職種内で初めて交流
- ・ 他職種へ要望を伝えた
- ・ 自職種への要望がわかった
- ・ 上司に聞けない事が聞けた！



最後に

取り組みを進める中で見てきたこと 今後の取り組みの中で大切にしたいPoint

市民啓発/市民との意識共有

- ・ 走りながら考えることの必要性。計画を踏襲したスケジュールリングも重要だが、各種取り組みを行っていると、潜在していた社会資源や情報が集まってくる。
 - ・ 取り組みをわかりやすく関係機関や市民に周知することにより、地域の「強み」が集まる仕組みに。
 - ・ 体制的・因習的・習慣的な課題は、長期的な対策を必要とする。まずは啓発から。
 - ・ 市民にとってインセンティブがあると感じられる取り組みであること。
- ↓
- ◆ 市民を主体とした取り組みに向けて
市民啓発と意識共有の取り組み強化

現場主義/実践からのPDCA

- ・ 各種ツールの活用も事例（個別・地域）があつてこそ、洗練された活用につながる。
 - ・ 事業・制度の実施も必要性があつてこそ。
 - ・ 制度改正や理想的な概念を伝えるだけでは、多忙な医療福祉関係者のアクションにはつながらない。
 - ・ 現状に困っている、切実な市民の要望、具体的な行政の現状こそ、医療福祉関係者との相互理解とモチベーションにつながる。
- ↓
- ◆ 事例（個別・地域）の支援場面、その都度に研修やツール、構築事業が活かされるために
 - ◆ 地域ケア会議からの課題ボトムアップの重要性



問い合わせ先

豊明市役所 健康福祉部
高齢者福祉課 地域ケア推進係

担当者 : 近藤、矢野、竹田
E-mail : koreifu@city.toyoake.lg.jp
TEL : 0562-92-1261
住 所 : 豊明市新田町子持松1番地1

豊明市のホームページ(高齢者福祉課)
<https://www.city.toyoake.lg.jp/koreishafukushi/>

いきいき笑顔ネットワークポータルサイト
「いきいき笑顔 ポータル」で検索 または
<http://p-ikiiki.nu-camcr.org/cms/>